

着けよう！ライフジャケット

《秋の釣りシーズンが到来、海中転落に注意！！》

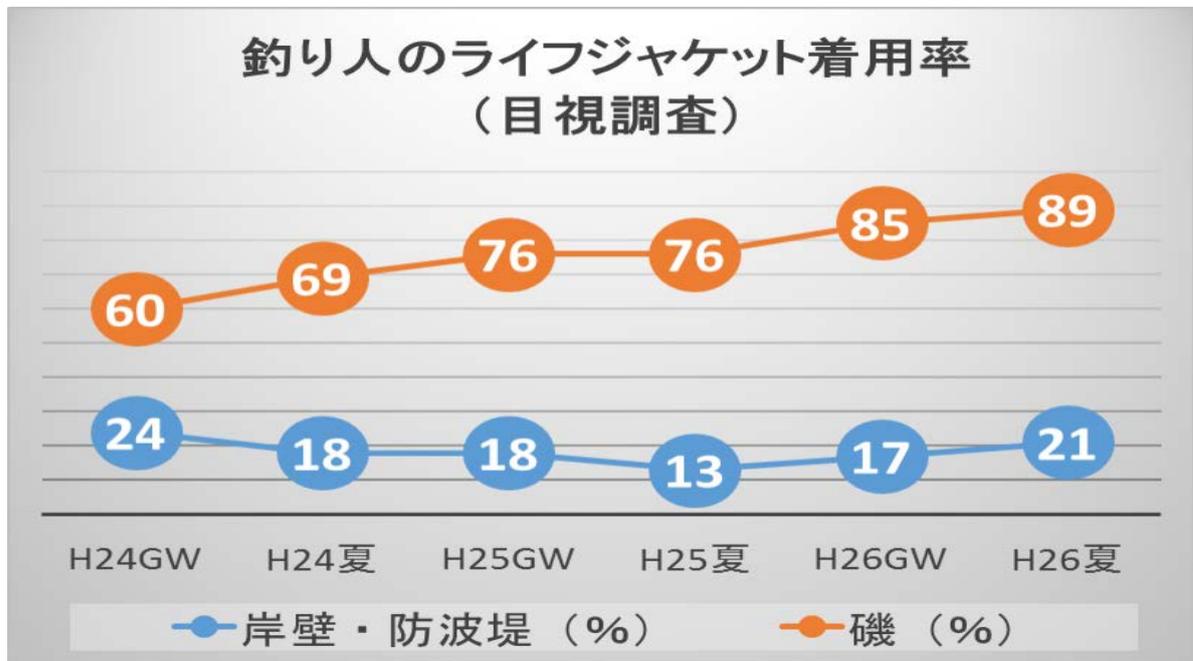
昨年、五管区内で発生したマリレジャーに伴う海浜事故者数は132人で、このうち釣り中の事故が最も多く63人となっています。

これから秋の釣りシーズン到来ですが、昨年、10～12月の3ヶ月間で年間事故の約半数が発生しました。

釣り中の事故の一番の原因は海中転落（63人中38人）ですが、このうちライフジャケット着用者は7人だけでした。

ライフジャケットの着用は、海中転落による生存率を大幅に増加させることから、第五管区海上保安本部ではライフジャケットの着用を強力に推進しています。

1 ライフジャケット着用状況



五管区においては、平成24年からゴールデンウィークと夏季期間に、管内の磯場10箇所及び岸壁・防波堤19箇所の定点において、ライフジャケット着用状況の目視調査を実施しております。

磯場では調査開始当初の60%から徐々に上昇して今夏は89%に達していますが、岸壁・防波堤での着用率は20%前後と低い状態が続いています。

2 釣り中の事故者のライフジャケット着用状況

(1) 今年の事故発生状況 (H26年1～8月まで)

	事故者数	海中転落者数 (再掲)	死者・行方不明者数 (再掲)
H26年1～8月	24人	16人	9人
H25年1～8月	28人	18人	7人

事故原因は海中転落が最も多く、死者・行方不明者の全てが海中転落によるものでした。

(2) 過去3年間の事故発生状況（H24年～H26年8月まで）

	事故者数（総数）	海中転落者数（再掲）	ライフジャケット着用者数（再掲）
事故者数	128人	79人	16人
死者・行方不明者数	34人	32人	4人

海中転落者79人のうちライフジャケット着用者は16人で、このうち12人が生還しており、生存率は75%です。一方、未着用者63人のうち生存者は35人で、生存率は56%に下がります。

【海中転落者の場所別発生状況】

	事故者数	死者・行方不明者数（再掲）	ライフジャケット着用者数（再掲）	着用率
岸壁・防波堤	61人	25人	5人	8%
磯場	18人	7人	11人	61%

死亡等事故の約8割は、着用率の低い岸壁・防波堤で発生しています。

磯場ではライフジャケットの着用率は比較的高いものの、気軽に訪れることのできる岸壁や防波堤では低く、危険に対する警戒心も薄いと考えられます。

3 救助事例

今年5月、神戸管内で発生した事故（海中転落）では、ライフジャケットを着用していた2歳幼児が無事に救助されました。

両親と子供2人の家族4人は、釣りをするため岸壁に来ていましたが、両親は泳ぎに自信がなかったため、万が一の海中転落に備えて子供にライフジャケットを着用させていました。釣りを終えて帰り支度をする中、遊んでいた子供1人が誤って海中転落しましたが、子供はライフジャケットを着用していたので浮いており、母親が飛び込んで子供を確保し、父親が救助要請の通報を行い、通報から15分と短時間で救助されました。

4 事故防止のための取組み

第五管区海上保安本部では、釣り中の事故防止、特に海中転落による死者・行方不明者を減少させるための取り組みとして、『五管五則』の提唱などライフジャケットの着用に主眼をおいた

- ・釣り関連施設などへの安全啓発活動（釣具店・釣り団体・渡船業者等）
- ・釣り愛好者への安全啓発活動（岸壁・防波堤、海釣り公園等）
- ・雑誌・テレビ・ラジオなどのマスメディアを活用した啓発活動
- ・漁業協同組合での海難防止講習会の実施（ライフガードレディースによるライフジャケット着用推進活動の支援）

などの活動を継続して推進しています。